

〔資料〕

看護学生の保健師教育に対する意識について

—三重県立看護大学4年生の意識調査から—

Public-Health-Nurse Education Awareness among 4th-Year Nursing Students

中北 裕子 多次 淳一郎 松川 真葵 山路 由実子
福山 由美 秋山 明子 大越 扶貴

【キーワード】 保健師教育 統合カリキュラム 看護系大学 保健師 看護学生

I. はじめに

わが国では、少子高齢化の進行、疾病構造の変化等に伴って生じる生活習慣病の予防、介護予防、健康危機管理、虐待防止等の様々な地域の課題を抱えており¹⁾、保健師はこれらの課題に対応できる高度な能力が求められている^{2,3)}。村嶋⁴⁾は、保健師免許を取得するということは、多様な対象とのコミュニケーション能力、プライマリヘルスケア能力、地域を担当できる能力等を持つことを意味すると述べており、専門的な保健師教育、保健師教育の充実が必要である⁵⁾と考えられている。平成22年4月に保健師助産師看護師学校養成所指定規則が一部改正され⁶⁾、保健師の役割と専門性をより明確にする観点から、保健師国家試験受験要件は修業年限6か月以上から1年以上に改正された。4年制課程の大学は、保健師国家試験受験資格と看護師国家試験受験資格が必須となっていた（看護師・保健師統合カリキュラム）が、1）看護師教育のみ実施、2）統合カリキュラムによる看護師と保健師教育を実施、3）保健師教育を選択制により一部の学生に実施、の中から一つを選択し、保健師教育を行うこととなった⁷⁾。

三重県立看護大学は、前身の三重県立看護短期大学地域看護学専攻科（昭和61年～平成8年）を経て、4年制大学への改組を機に、統合カリキュラムによる保健師教育を行うこととなった。

保健師教育が行われている全国の看護系大学187課程のうち、選択制に移行した大学が83%を占めてい

る⁸⁾。また三重県内の看護系大学4校のうち、統合カリキュラムを行っているのは本学のみであり、保健師教育が必修となっている点が本学の特徴の一つである。先行研究によると^{5,9)}、保健師志望者は保健師教育を行っている看護系大学の全体の約10~20%おり、実際に就職するのは約10%である。一方、過去5年間（平成20~24年度）に本学での保健師免許を取得した学生467人中、卒業後直ぐに保健師として就職した学生は14人（3.0%）であった。

本学では全ての学生が保健師免許を取得できる環境にあるが、保健師としての就職に結びつかないという現状から、本学の統合カリキュラムにおける保健師教育のあり方を検討することは、今後の保健師教育をより良いものにするための一助になると考える。

そこで本研究は、保健師免許の取得に関する学生の意識調査を行い、統合カリキュラムにおける保健師教育の在り方を検討することを目的とする。

II. 方法

1. 調査対象者と調査方法

三重県立看護大学に在籍する看護学科4年生94人のうち、看護総合特論（看護を支える学問を再考し、看護学の基礎的知識の熟知を行うための科目）の中で、平成25年12月に実施された地域在宅看護学分野の在宅看護学に関する講義を受講した学生84人を調査対象とし、無記名自記式質問紙調査を行った。

Yuko NAKAKITA：三重県立看護大学
Yumiko YAMAJI：三重県立看護大学
Fuki OKOSHI：三重県立看護大学

Junichiro TAJI：三重県立看護大学
Yumi FUKUYAMA：三重県立看護大学

Maki MATSUKAWA：三重県立看護大学
Akiko AKIYAMA：三重県立看護大学

2. 調査項目

調査項目は先行研究を参考に作成した^{10,11)}。調査項目は1) 本学への進学理由、2) 卒業後の進路希望、3) 保健師教育に関する考えで構成されており、回答は5件法のリッカートスケール(1:全くそう思わない~5:とてもそう思う)からの選択とした。

3. 分析方法

本学への進学理由、卒業後の進路希望、保健師教育に対する考えの単純集計を行った。

本学への進学理由として「保健師免許が取得できることについては興味がなかった」の問いに対し無回答であった1人を除いた78人の中で、「全くそう思わない」、「そう思わない」と回答した人を「興味あり群」、「どちらともいえない」、「まあそう思う」、「とてもそう思う」と回答した人を「興味なし群」として、t検定により卒業後の進路希望と保健師教育に関する考えを比較した。

また、卒業後の進路希望で「保健師として就職したい」の問いに対し無回答であった1人を除いた78人の中で、「全くそう思わない」、「そう思わない」と回答した人を「希望なし群」、「どちらでもない」、「まあそう思う」、「とてもそう思う」と回答した人を「希望あり群」として、t検定により保健師教育に関する考えを比較した。統計解析にはSPSS Statistics Version21 (for windows)を使用した。

4. 倫理的配慮

授業開始前に質問票の配布を行い、調査の主旨、匿名性の確保、参加拒否の権利、プライバシー保護、データの取り扱い、調査の公表、拒否をしても学生が不利益になることはないこと等を明記した調査依頼文を用いて、口頭及び文書による説明を行った。調査への任意性を確保するため、調査票は無記名とし、教室後方出口に回収箱を設置し、退室時に各自で投函してもらい教員が回答者を把握できないようにした。回収後の調査票は鍵のかかるキャビネットに保管した。なお、調査票の回答をもって調査の同意が得られたものと判断した。

III. 結果

調査対象学生84人中79人から回答が得られた(回収

率:94.0%、有効回答率:94.0%)。

表1に本学への進学理由、表2に卒業後の進路希望、表3に保健師教育に関する考えについての単純集計を示す。

表4に、本学への進学理由として保健師免許取得への興味と卒業後の進路希望及び保健師教育に関する考えを示す。保健師免許の取得について「興味あり群」は、「興味なし群」に比べ「看護師と保健師の免許が両方取れる方がよい」、「保健師教育を選択制にした場合、選択したい」の平均得点が有意に高かった。一方、保健師免許の取得について「興味なし群」は「興味あり群」に比べて、「保健師教育は選択制にすべきだ」の平均得点が有意に高かった。

表5に卒業後の保健師就職希望と保健師教育に関する考えを示す。卒業後保健師としての就職について「希望あり群」は「希望なし群」に比べ、「保健師の勉強は面白かった」の平均得点が有意に高かった。

IV. 考察

本調査では、統合カリキュラムにおける保健師教育の在り方を検討することを目的として、保健師免許の取得に関する学生の意識調査を行った。その結果、得られた知見を以下に示す。

80%以上の学生は、看護師、保健師免許が取得できることを本学への進学理由としていることが示された。このことは、統合カリキュラムが大学進学時の進路決定において、魅力的な要因になっていることが示唆された。また、入学時に保健師免許が取得できることに興味を持っていた「興味あり群」は、「興味なし群」に比べ、有意に看護師と保健師の免許が両方取れる方がよいと考えていた。また「興味あり群」は、有意に保健師教育は選択制にすべきでないと考えており、保健師教育が選択制となった場合には選択したいと答えていた。このことは、保健師免許の取得に興味がある学生にとって、確実に保健師免許が取得できる統合カリキュラムは、学生の希望にかなったものであることが示唆された。

保健師教育が選択制となる大学が増える中で、保健師免許の取得を希望しても保健師国家試験受験資格を得られなくなる学生が増加すると考えられる³⁾。本学における統合カリキュラムによる保健師教育は、看護師と保健師免許を両方取得したい学生のニーズに合致

表 1 本学への進学理由

	全くそう思わない		そう思わない		どちらでもない		まあそう思う		とてもそう思う		M	SD
	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)		
看護師免許が取得できるため	1	(1.3)	0	0.0	1	(1.3)	3	(3.8)	74	(93.7)	4.9	±0.7
保健師免許が取得できるため	1	(1.3)	4	(5.1)	11	(13.9)	27	(34.2)	36	(45.6)	4.2	±1.0
助産師免許が取得できるため	11	(13.9)	8	(10.1)	22	(27.8)	22	(27.8)	16	(20.3)	3.3	±1.3
保健師免許が取得できることは知らなかった	57	(72.2)	8	(10.1)	4	(5.1)	7	(8.9)	3	(3.8)	1.6	±1.2
保健師免許が取得できることについては興味があつた	27	(34.2)	16	(20.3)	21	(26.6)	14	(17.7)	0	0.0	2.3	±1.2

表 2 卒業後の進路希望

	全くそう思わない		そう思わない		どちらでもない		まあそう思う		とてもそう思う		M	SD
	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)		
看護師として就職したい	2	(2.5)	2	(2.5)	2	(2.5)	8	(10.1)	65	(82.3)	4.7	±1.0
保健師として就職したい	15	(19.0)	24	(30.4)	23	(29.1)	12	(15.2)	4	(5.1)	2.6	±1.1
助産師として就職したい	49	(62.0)	16	(20.3)	7	(8.9)	4	(5.1)	3	(3.8)	1.7	±1.1
養護教諭として就職したい	26	(32.9)	16	(20.3)	19	(24.1)	13	(16.5)	5	(6.3)	2.4	±1.3
大学院などに進学したい	40	(50.6)	22	(27.6)	12	(15.2)	4	(5.1)	1	(1.3)	1.8	±1.0

表 3 保健師教育に関する考え

	全くそう思わない		そう思わない		どちらでもない		まあそう思う		とてもそう思う		M	SD
	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)		
看護師と保健師の免許が両方取れる方がよい	0	0.0	0	0.0	6	(7.6)	15	(19.0)	58	(73.4)	4.6	±0.7
保健師教育は選択制にすべきだ	10	(12.7)	28	(35.4)	30	(38.0)	11	(13.9)	0	0.0	2.5	±0.9
保健師教育を選択制にした場合、選択したい	0	0.0	3	(3.8)	16	(20.3)	31	(39.2)	29	(36.7)	4.1	±0.9
保健師の勉強は面白かった	7	(8.9)	18	(22.8)	26	(32.9)	19	(24.1)	9	(11.4)	3.1	±1.1
看護師の勉強だけで精一杯である	4	(5.1)	7	(8.9)	14	(17.7)	35	(44.3)	19	(24.1)	3.8	±1.1
魅力的な保健師教育ではなかった	7	(8.9)	20	(25.3)	44	(55.7)	5	(6.3)	1	(1.3)	2.7	±0.9

表 4 入学時の保健師免許取得への興味と卒業後の進路希望及び保健師教育に関する考え

	興味あり群 n=43	興味なし群 n=35	p値
卒業後の進路希望			
看護師として就職したい	4.6 ± 1.0	4.7 ± 0.7	.485
保健師として就職したい	2.7 ± 1.3	2.4 ± 0.9	.239
助産師として就職したい	1.6 ± 0.9	1.9 ± 1.2	.228
養護教諭として就職したい	2.6 ± 1.4	2.1 ± 1.1	.095
大学院に進学したい	1.8 ± 1.0	1.8 ± 0.9	.784
保健師教育に関する考え			
看護師と保健師の免許が両方取れる方がよい	4.8 ± 0.5	4.5 ± 0.7	.036
保健師教育は選択制にすべきだ	2.3 ± 0.9	2.8 ± 0.8	.027
保健師教育を選択制にした場合、選択したい	4.3 ± 0.7	3.8 ± 0.9	.009
保健師の勉強は面白かった	2.9 ± 1.2	3.3 ± 1.0	.209
看護師の勉強だけで精一杯である	3.8 ± 1.1	3.7 ± 1.1	.593
魅力的な保健師教育ではなかった	2.6 ± 0.9	2.7 ± 0.7	.681

t-test, 平均±SD, 1:全くそう思わない-5:とてもそう思う

表 5 卒業後の保健師就職希望と保健師教育に関する考え

	希望あり群 n=39	希望なし群 n=39	p値
看護師と保健師の免許が両方取れる方がよい	4.7 ± 0.6	4.6 ± 0.6	.365
保健師教育は選択制にすべきだ	2.6 ± 1.0	2.5 ± 0.8	.802
保健師教育を選択制にした場合、選択したい	4.2 ± 0.9	3.9 ± 0.8	.184
保健師の勉強は面白かった	3.4 ± 1.2	2.8 ± 1.1	.027
看護師の勉強だけで精一杯である	3.8 ± 0.9	3.6 ± 1.2	.470
魅力的な保健師教育ではなかった	2.7 ± 0.8	2.6 ± 0.8	.443

t-test, 平均±SD, 1:全くそう思わない-5:とてもそう思う

し、魅力ある進学理由の一つになると考えられる。

保健師としての就職希望については、入学時に保健師免許の取得に興味を持っていることと、最終学年時の意向に有意な差はなかった。先行研究と同様に¹²⁾、学生は国家資格というライセンス取得に重きを置く傾向にあることが示唆された。また、卒業後保健師としての就職を希望する学生は、「保健師の勉強は面白かった」と思っていたことから、入学後の保健師教育の在り方が、卒業後の進路希望に関係することが示唆された。

今後、学部において、学生が興味関心を示し面白いと感じられる保健師教育の充実が課題である。

本研究の限界と今後の課題

本研究は、保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正前に入学した学生の、大学4年生の時点での保健師免許の取得に関する意識調査であり、今後の保健師教育を考える資料として意義のあるものとする。しかし、在籍する4年生全員を調査対象とできず、対象者は統合カリキュラムを、理解した上で回答しているのかは不明であるため、一般化には限界がある。

今後は、どのような保健師教育を学生が面白いと感じ、保健師としての就職希望に影響を及ぼすかを検討することが必要である。

【結論】

1. 80%以上の学生は、看護師、保健師免許が取得できることを本学への進学理由としていた。
2. 入学時に保健師免許の取得に興味があった学生は、興味のない学生に比べ有意に「看護師と保健師の免許が両方取れる方がよい」、「保健師教育を選択制にした場合、選択したい」と答えていた。一方、保健師免許の取得に興味のない学生は、興味のある学生に比べて有意に「保健師教育は選択制にすべきだ」と答えていた。
3. 4年生の時点で卒業後の進路として保健師での就職を希望した学生は、希望しない学生に比べ、有意に「保健師の勉強は面白かった」と感じていた。

【謝辞】

本研究に快くご協力いただきました三重県立看護大学学生の皆様に、心より感謝申し上げます。

【文献】

- 1) 末松カツ子, 瀬川香子, 鈴木和弘他: 大学における保健師教育に関する考察, 東北大学医保健学科紀要, 16(2), 69-70, 2007.
- 2) 麻原きよみ, 大森純子, 小林真朝他: 保健師教育機関卒業時における技術項目と到達度, 日本公衆衛生雑誌, 57(3), 184-193, 2010.
- 3) 井伊久美子: 職能団体からみた保健師卒後教育のあり方, 日本公衆衛生雑誌, 74(7), 561-565, 2010.
- 4) 村嶋幸代: 修士課程における保健師教育の必要性と実際, 保健の科学, 52(4), 234-240, 2010.
- 5) 綾部朋江, 富岡実穂, 木下由実子: 保健師志望学生が望む保健師教育の在り方—A大医学4年生の意見を通して—, 茨城県立医療大学紀要, 17, 51-58, 2012.
- 6) 大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会, 大学における看護系人材養成のあり方に関する検討会1次報告, 2009.
- 7) 佐伯和子, 平野美千代, 本田光: 学士過程における保健師教育強化モデルコースの教育実践—統合カリキュラムから大学教育への過渡期の形態として—, 北海道公衆衛生学雑誌, 27(2), 197-201, 2014.
- 8) 石橋みゆき, 辻邦章, 西尾和幸: 平成23年保健師助産師看護師学校養成所指定規則改正に伴う看護系大学における新カリキュラムの概要, 看護教育, 53(5), 398-403, 2012.
- 9) 佐藤公子: 保健師教育の課題と方向性—看護系大学統合カリキュラムに対する学生の意識調査—, 日本看護学会論文集地域看護, 42, 213-215, 2012.
- 10) 高橋郁子, 嶋澤順子, 久保善子他: 看護系大学における保健師教育に対する学生の認識—A大学の保健師教育課程選択制に関わる現状と課題—, 慈恵医大誌, 128, 99-107, 2013.
- 11) 白木裕子, 佐藤都也子, 片田裕子他: 保健師教育に関する看護系大学生および高校生の意向, 茨城キリスト教大学看護学部紀要, 2(1), 45-48, 2010.
- 12) 福本恵: 保健師教育の変遷と今日的課題, 京都府立医科大学誌, 117, 945-955, 2008.